

弔

碎

經金居協會
會長安田誠久男

弔 辞

昭和電工株式会社取締役会長
故佐竹次郎殿の社葬が挙行
とられるに当り、恭しく
御霊前に告げます。

貴下は大正十年東京帝
国大学経済学部卒業後
南滿洲鉄道に入社。その後
滿鮮各社の重職を経られ
更に生命保険業界に入られ
日産生命、富国生命の各
取締役社長の御歴任、
特に戦後の生命保険業界
の恢復に御努力なされ、その

卓越した御経倫によりて
昭和二十八年十月 昭和電工
株式会社取締役社長に懇
わねて就任され、多事多難
を極めた会社の発展並に
軽金属工業の発展に盡粹
とられたのであります。

今や貴下の御努力によりて
昭和電工株式会社はわが国
を代表する一大化学工業

会社として又アルミニウム製錬
会社として、今名を博し、
社運隆々として前途の憂
なく貴下は後進の途を

ゆずり取締交令受に御就
任く。生来の御内満心
人格の下に業界の先輩
とこそ御指導に素念せられ
業界挙げて感佩申
上げてゐるとも、忽然と
逝きゆくたこと、痛恨
極りなく誠に哀悼に堪
えませし。
私共は貴下の高潔なる
人格と徳び軽金屬業界
における偉大な業績を
永く後身に伝え貴下の
後を受けついで斯業の

円満な発展を期する
ものであります。

ここに軽金属工業界を
代表し聊か蕪辞を
ぬて弔辞と致します。

昭和三十三年十月二十六日

社団法人軽金属協会

会長 安田 幾之男